
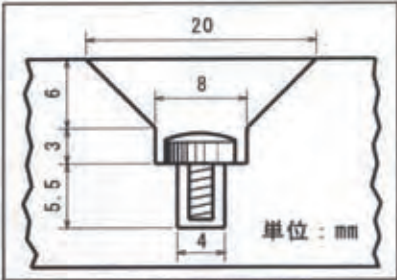

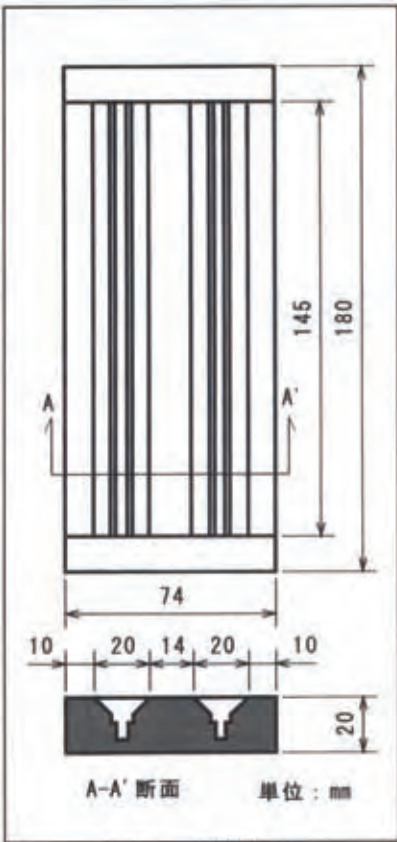


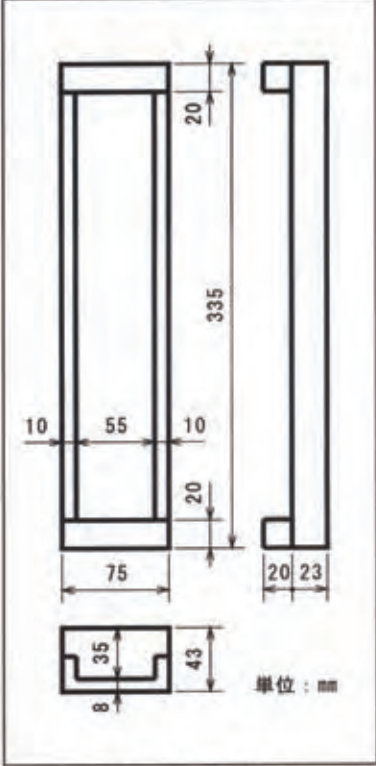



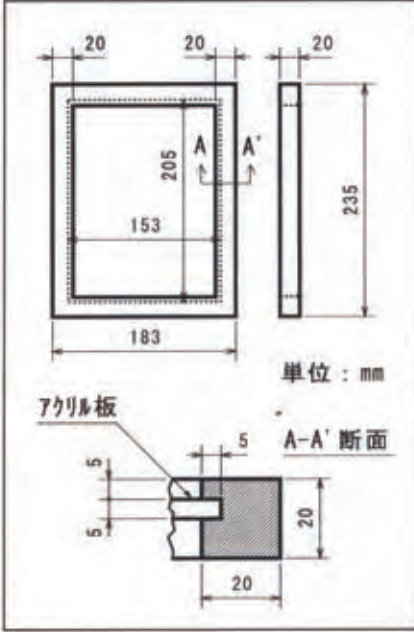





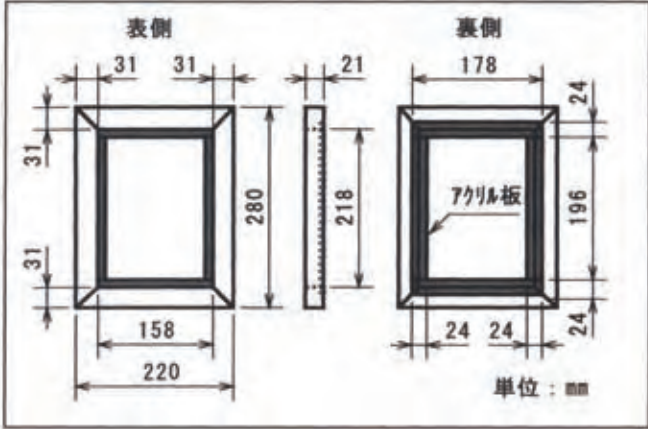
事例11	CAD用図面掛け	製作期日	平成11年 6月
製作目的	<p>上肢右手麻痺の者がCAD作業を行うとき、図面を脇の机に置いて照合しながら作業をすると、体を大きく左右に動かすために能率低下と疲労の増大を招く。これを改善するため、片手で操作できる図面掛けを製作した。 (製作契機：片手麻痺の作業者のために、片手だけで着脱できる図面掛けが必要だったため。)</p>		
外観・構造・材料	<p>外観は下の写真のとおりである。写真1は図面掛けを補助棒で手前に引き寄せているところで、この後、図面掛けからバインダー部を外し机の上で図面をバインダーにはさんでから再び図面掛けに掛け、補助棒で見やすい位置に図面をセットして使用する。写真2は使用状態である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="435 799 816 1092"> </div> <div data-bbox="954 799 1336 1092"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="548 1097 711 1131">[写真 1]</div> <div data-bbox="1060 1097 1222 1131">[写真 2]</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: right;">材質：木材 単位：mm</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">[図 1]</p> <p>寸法は図1のとおりで、A1の大きさの図面まで掛けられる。部品Aは、フリーアーム式電気スタンドの電球部分を取り外したアームに取り付けてある。部品Aには木ねじを2本立て、これに部品Bを引っ掛けて使用する。部品Bはバインダーになっており、内側には幅1cmの接着剤付きマグネットテープを両方の板に貼り、磁石の吸引力で図面を押さえるようにしてある。 この図面掛けを手元に引き寄せたり、見やすい位置に調節するための補助棒は、アンテナ素子の材料である直径1cmのアルミのパイプを利用し、先端には引っ掛け用のかぎを付け、手元には木製の柄を付けてある。</p>		
備考	<p>電気スタンドのアーム部を利用したため、机に取り付けるスペースは非常に僅かである。実際に使用してみると、片手で容易に図面の取り付け、取り外しができ、効率のよい作業が実現できた。</p>		

事例12	端子盤固定台	製作期日	平成11年 7月
製作目的	<p>脳性麻痺のため両手に不随意運動がある作業者が端子盤のねじ止め作業を行う際に、端子盤を固定して作業をしやすくするために端子盤固定台を製作した。 (製作契機：脳性麻痺者が、両手に不随意運動があってもねじ止め作業の練習ができるようにする必要があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<p>写真1は外観で、長さ30cm、幅10cm、厚さ1.5cmの板に端子盤が入る幅の溝を付けたものである。この台を、電気スタンドの固定具を利用して机に取り付けてある。端子盤をこの溝に入れると、横には動かないが前の方に動いてしまうので、これを押さえるために消しゴムを利用している。</p> <p>写真2は端子盤を消しゴムで押さえて固定している様子を示している。消しゴムは普通のプラスチックのもので、丁度幅がぴったりと合い、取り外すときも簡単に外すことができるのでとても具合がよい。消しゴムの弾力が程よく端子盤を押さえるので作業もやりやすい。</p> <p>写真3は実際の使用状態を示したものである。端子盤の着脱は消しゴムを動かすだけで簡単に行え、両手はフルに作業に集中できる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>[写真1 外観]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真2 端子盤の固定状況]</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>[写真3 使用状態]</p> </div>		
備考	<p>簡単な補助具であるが使い勝手はとてもよい。しかし、急いで作ったため板は無塗装であり汚れや傷が付きやすい。やはり塗装はかけた方がよい。</p>		

事例13	端子盤用ねじ整理箱	製作期日	平成11年 7月
製作目的	<p>脳性麻痺のため手に不随意運動が起きる作業者が、端子盤のねじを片手で容易に取り付けられるように工夫した補助具である。 (製作契機：両手の不随意運動や片手麻痺の作業者が、片手だけでドライバーの先端にねじを付け、ねじ止め作業ができるようにする必要があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>[写真1] 机に固定した整理箱にねじを入れ、ドライバーをねじの頭の十字溝に差し込む。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>[図1 溝部詳細]</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;">  <p>[写真2] ねじは、ドライバーの先端に付くのでそのままねじを差し込むところに持っていき、締めればよい。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>[図2 各部寸法]</p> </div> </div> <p>外観は写真1のとおりである。整理箱には2列のV形の溝があり、ねじを入れると図1のように頭を上にして並べられるようになっている。</p> <p>ねじの十字溝にぴったり合ったドライバーを強く押し付けると、ねじはドライバーの先端に付くので、そのまま写真2のように端子盤などのねじ孔に差し込み締め付ければよい。</p> <p>各部の寸法は図2のとおりである。4mm幅の溝は丸鋸で、8mm幅の溝と20mm幅の三角溝はルーターで削って製作した。</p> <p>表面は、汚れ付着の防止と傷を付きにくくするためにニス塗装をかけてある。</p> <p>※M3 (M3.5) : 直径3 (3.5) mmのメートルねじのこと。</p>		
備考	<p>実際に使用してみると、誰が使っても作業がしやすくなる。 ねじはM3とM3.5に合うように作ってある。</p>		

事例14	リレーソケット作業台	製作期日	平成11年 7月
製作目的	<p>手に不随意運動があると小さなソケットを扱う作業は困難を伴う。ソケットを木の枠にはめ、安定をよくして作業をしやすくすることと、ソケットを10個単位にまとめて扱いやすくすることを目的として作業台兼整理用の木枠を製作した。 (製作契機：両手に不随意運動がある入所者が、小さく軽いリレーソケットを安定に組み立てることができる必要があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>[写真1 外観]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真2 使用状態]</p> </div> </div> <p>外観は写真1のとおりで、一種の箱である。この中に、リレーソケット（リレー端子台ともいう）を10個写真2のように並べて入れる。写真2の状態で行うが、10個単位で作業をすすめるので効率はよい。</p> <p>作業台の各部寸法は図1のとおりである。写真1と見比べると分かりやすいが、本体は材木をU形にルーターで削り、その両端に凸型の板を取り付けたものである。表面はニス塗装を掛け汚れと傷を防止している。</p> <p>また、この作業台はリレーソケットを入れた状態で積み重ねることができるようになっている。</p> <div style="text-align: right;">  <p>[図1 各部寸法]</p> </div>		
備考	<p>10個単位でリレーソケットをまとめられるので作業机の上が整理できる。また積み重ねて収納できるので便利に使っている。</p>		

事例15	電卓カバー	製作期日	平成11年 9月
製作目的	<p>指に震えのある作業者が電卓を使用するとき目的以外のキーを押さないようにするため、カバーの表面がキーより少し高くなっており、孔に指を差し込まないとキー操作ができないようにしたものである。</p> <p>(製作契機：両手に不随意運動がある脳性麻痺者が、電卓のキーを正しく押せる必要があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>[写真1 表側]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真2 裏側]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真3 使用状態]</p> </div> </div> <p>外観は写真1～写真3のとおりである。写真1は表側、写真2は裏側を示している。裏側での内側部分は面取りをして電卓への着脱をスムーズにしている。写真3は使用状態であるが、電卓のキーの表面とアクリル板の表面までの隙間は約2mmあるので、指先がキーを押すためにはそれぞれのキーの孔に指を入れなければならない。そのため、アクリル板の上に手を乗せても不用意にキーを押すことはない。アクリル板の上で指を滑らせながら目的のキーを押すことができる。</p> <p>各部の寸法は図1のとおりである。アクリル板は木枠の内側に溝を作り、そこにはめ込んで固定してある。アクリル板は電卓のキー配列に合わせて四角の孔をあけてある。キーの入る孔は糸鋸を使って加工した。</p> <p>ここで使用している電卓は、カシオのDS-1及びDS-1Bである。</p> <div style="text-align: right;">  <p>単位：mm</p> <p>アクリル板</p> <p>A-A'断面</p> </div> <p>[図1 各部寸法]</p>		
備考	<p>指先に震えがある作業者は、今まで電卓のようなキー操作を伴う作業は困難であったが、この電卓カバーを使うことにより、速度は遅いが正確なキー操作ができるようになった。</p>		

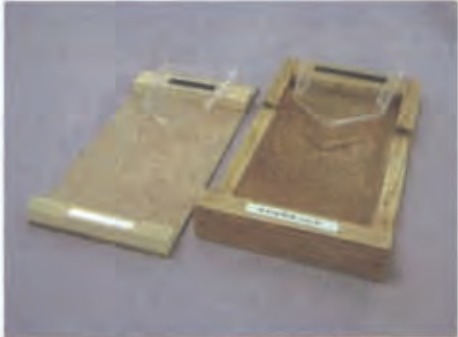



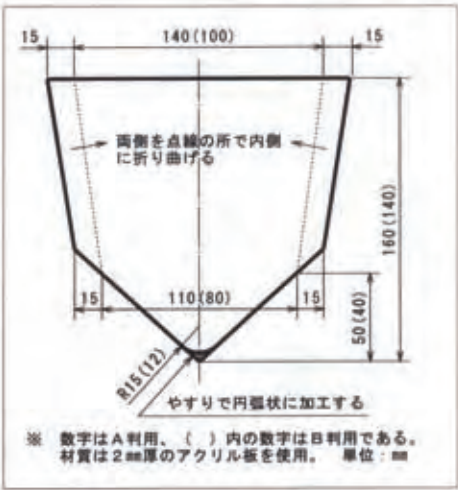
事例16	メモ用紙製作用テンプレート	製作期日	平成11年12月
製作目的	<p>紙に枠を書き、それを切り取ってメモ用紙を作る作業で、上肢や視覚に障害がある場合は、スケールを使用して定められた寸法の長方形を描く作業が困難なときもある。そのため、メモ用紙の大きさのテンプレートを使用することにより、所定の大きさの枠を紙に容易に描けるようにしたものである。 (製作契機：手・指に麻痺のある入所者が、テンプレートにより紙にメモ用紙の枠線を描けるようにする必要があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<p>外観は写真のとおりで、写真1は表側、写真2は裏側である。写真3は裏側のコーナー部分の拡大で、裏側に固定してあるアクリル板の様子を示したものである。使用しているアクリル板は厚さ3mmのもので、各辺の寸法を正確に出すことと、直角を出すための調整ができるように4枚の直線状のものをねじ止めしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>[写真1 表側]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真2 裏側]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真3 裏側コーナー部分]</p> </div> </div> <p>各部の寸法は図1のとおりである。外枠は木材で作成し、裏側に厚さ3mmのアクリル板を取り付けるため、約2mmの深さに彫られている。アクリル板はねじ止めするが、ねじの頭が引っかからないように、ねじ孔を皿もみしてねじの頭が沈むようにしてある。</p> <p>表から見た場合に、アクリル板が約10mm幅で内側に出ているので、作業をする場合下の紙の様子が確認できる。</p> <p>木材の枠には塗装を掛けて滑らかな使用感をもたせている。</p> <p>このテンプレートで描ける枠の寸法は、135mm×195mmである。</p> <div style="text-align: center;">  <p>[図1 各部寸法]</p> </div>		
備考	<p>実際に使用してみると、誰が使っても安定した作業ができ、具合がよい。片手で作業する場合は、ウエイトを枠の一部に置いて動きにくくして使用する。</p>		

事例17	電源コード結束作業台	製作期日	平成12年 1月
製作目的	<p>電源コードを結束する作業は、慣れないと仕上がりの形や大きさが不揃いになってしまうコツを要する作業である。そこで、誰がやっても均一の仕上がりになるような巻枠、即ち電源コード結束作業台を製作した。 (製作契機：電気器具の組立作業過程での組込みが不可欠とされる「電源コードの結束」を、同じ形につくる練習台が必要とされたため。)</p>		
外観・構造・材料	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="358 633 842 996"> </div> <div data-bbox="915 633 1399 996"> </div> </div> <p>[写真1 外観と使用状態] [写真2 電源コードの結束状態]</p> <p>写真1は外観で、このように作業机に固定して使用する。ここでは2mの電源コードを結束することを前提にして、各部の寸法を図1のように決めてある。</p> <p>使い方は、コードの一端を作業台の左側にある「コード止め」にはさみ、そこから右の方に伸ばして「右・コード掛け」に引っ掛けて手前から左に回し、「左・コード掛け」に引っ掛ける。このように左右のコード掛けに巻き付け、3回目に折り返して今度はコード自体に15回巻き付ける。更に半回転させコードの端（プラグの付いている側）を右側のコードの輪に下から上に通してしっかり締める。これで完成となり、写真2のような状態となる。</p> <p>この後、左右のコード掛けからコードを抜きでき上がりである。</p> <p>本体は材木で作り、表面はニスを拭き塗りして仕上げている。</p> <div style="text-align: center;"> <p>単位：mm</p> </div> <p>[図1 各部寸法]</p>		
備考	<p>一般の作業者は見ているだけで作業を理解し、すぐにできるようになる。しかし、でき上がったコードを引き抜くときに少し手間取るので、右のコード掛けからコードを抜くときに1cmぐらい内側に移動できるような方法を検討中である。</p>		

事例18	マグネット・バインダー	製作期日	平成12年 5月
製作目的	<p>片手麻痺の入所者が帳簿や伝票に線を引く場合に、片手だけでマグネット・シートと金属スケールを利用して効率的に線引きができるようにするための事務用補助具を製作した。 (製作契機：左手麻痺の入所者が簿記の学習をする際、文鎮を使用していたが、線を引くときに右端に近づくと文鎮が動いて線が曲がる欠点があったため。)</p>		
外観・構造・材料	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="365 677 868 1051">  <p>[写真1 本体・紙押さえ・スケール]</p> </div> <div data-bbox="938 677 1442 1051">  <p>[写真2 A4用紙の取付状態]</p> </div> </div> <p>このバインダーの構成要素は写真1のとおりである。本体はマグネット・シートを250×330mmの大きさに切り、これを厚さ5mmのベニヤ板に貼り付けたものである。紙押さえは製図に使用する薄い帯状のステンレス板を利用し、一方の端を折り曲げてつまみやすくした。線引き用にはステンレス製の30cm金属スケールを利用し、一方の端を約20mm折り曲げてある。ステンレス材はマグネット・シートに吸引されるため、この吸引力により紙を押さえることができる。ここで使用している紙押さえや金属スケールは広い面で紙を押さえるため、バインダーの全面にわたって安定した作業が可能となる。</p> <p>使用できる用紙の大きさはA4判用に作成した。用紙を取り付けた状態は写真2のようになる。</p> <p>マグネット・シートとベニヤ板の接着には皮革・布用の接着剤を用いた。ベニヤ板は切り口のところが長く使用しているとはがれて棘を刺したりするので、塗装を掛け最後にクレーラッカーで滑らかに仕上げた。</p> <p>実際に使用している様子は写真3のとおりである。写真3は伝票に斜線を引いているところで、写真の左上にあるのが今まで使用していた文鎮である。</p> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="938 1457 1442 1836">  <p>[写真3 使用状態]</p> </div> </div>		
備考	<p>文鎮では線を引くときに文鎮の高さで視野が遮られ、紙を見るためにのぞき込まねばならず作業がしにくかったが、このバインダーでは金属スケールを使用するため線も見やすく作業が楽になり効率が上がった。</p>		

事例19	バインダー開閉用具	製作期日	平成12年 6月
製作目的	<p>文書をはさむバインダーは一般には両手で操作するが、片手により押さえ金具の引き上げと文書の出し入れができる補助具を製作した。 (製作契機：片手麻痺の入所者から、片手でバインダーに紙をはさめるような道具は何か工夫できないかとの相談があり、製作したものである。)</p>		
外観・構造・材料	<p>外観は写真1のとおりである。ベニヤ板の上に、バインダーを固定するためのL形の枠の部分と、バネの入った紙押さえの金具をテコで押し上げ固定する部分とで構成している。</p> <p>使い方は、まずバインダーを枠に密着させ、写真2のようにテコにする棒を紙押さえの金具に差し込み、押し下げて紙押さえを開く。テコの棒は右側の木の台に引っ掛けて写真3のように固定すると、手を離しても紙押さえは開いたままになる。この状態で紙は自由に抜き差しができるので、片手でも写真4のように簡単にセットできる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="344 1090 639 1311"> <p>[写真2 紙押さえを開く]</p> </div> <div data-bbox="732 1090 1027 1311"> <p>[写真3 テコを固定]</p> </div> <div data-bbox="1117 1090 1412 1311"> <p>[写真4 紙をセット]</p> </div> </div> <p>紙がセットできたら、テコの棒を固定台からはずし、紙押さえを元に戻して棒を抜けば完了である。</p> <p>バインダーの大きさは、B5、A4、B4で、それぞれ縦・横の二種類がある。そのため、テコの棒を固定する位置を実測すると4通りになり、写真のように3個の固定台が必要となった。中央の固定台は、左右を使うようにしてテコの棒が入る隙間を確保している。</p> <p>バインダーを固定する枠のうち、上方の部分には約5mmの溝があり、バインダーを押さえる役目をしている。</p> <p>各部の寸法は図1のとおりである。</p> <div style="text-align: center;"> <p>[図1 各部寸法]</p> </div>		
備考	<p>片手麻痺の方に使用してもらい感想を聞くと、「これならどのようなバインダーでも使えるので具合がよい」とのことであった。テコ棒の材料には当初普通の木材を使用していたが、摩耗がはやいので現在は硬い黒檀を使用している。</p>		

事例20	ラベルワープロ台紙はくり用具	製作期日	平成12年 6月
製作目的	<p>ラベルワープロは便利な文具であるが、台紙をはがすのに少し手間がかかる。この作業を片手で行えるようにしたのが、このはくり用具である。 (製作契機：片手麻痺の入所者から、ラベルワープロの台紙を片手ではがせる方法は何か工夫できないかとの相談を受けて考案したものである。)</p>		
外観・構造・材料	<p>外観は写真1のとおりで、小さな板の上に細い角材を乗せた簡単なものである。 角材の一端は垂直に切り落とし、他の一端は曲線状に加工して、使用する場所がすぐに見分けられるようにしてある。 角材の垂直に切り落とした面と上部の二つの面にまたがる形で両面粘着テープを貼り付けてある。テープの長さは2～3cmである。 使い方は、まず写真2のようにラベルワープロの先端を3mmぐらい出して上面の粘着テープにラベルワープロの台紙を貼り付ける。 はみ出しラベルの先端は垂直面にしっかり押しえ付けて貼り付ける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="347 1067 659 1299"> <p>[写真2 台紙面を貼る]</p> </div> <div data-bbox="740 1067 1052 1299"> <p>[写真3 先端部をはがす]</p> </div> <div data-bbox="1127 1067 1438 1299"> <p>[写真4 全面をはがす]</p> </div> </div> <p>次に、写真3のように垂直面に貼り付けたラベルの先端部を爪ではがす。先端部がはがれたら、写真4のように全面をはがし、必要な箇所貼り付けることができる。</p> <p>各部の寸法は図1のとおりで、あり合わせの材木を使用している。上の角材は、台の下から木ねじで固定している。</p> <p>木の表面は、クリヤーラッカーで拭き塗りをし汚れを防いでいる。</p> <div style="text-align: right;"> <p>[図1 各部寸法]</p> </div>		
	備考	<p>この他にもいろいろな方法を考えたが、実際に使用してみるとこの単純な方法が最も使いやすいと好評であった。</p>	

事例21	封筒詰用具	製作期日	平成12年 6月
製作目的	封筒に文書を詰める作業を片手で行える補助具を製作した。 (製作契機：片手麻痺の入所者が、就職希望企業に提出する履歴書作成の作業指導中、履歴書を封筒に入れる段階で非常に苦勞しており、本人の要望に応じて封筒詰用具を考案した。)		
外観・構造・材料	<p>外観は写真1のとおりで、左がB判定形用、右がA判定形用である。</p> <p>この用具のポイントは、写真2に示す亚克力製の差込口である。封筒の開口部をこの差込口に差し込むと、両側に折り返してある部分が封筒の開口部を押し広げるのと同時に、書類を入れる際にガイドの働きをするため、容易に書類を詰めることができる。</p> <p>その後、写真4のように封筒を取りはずし、机上で封筒の底部をトントンと軽くたたけば書類はしっかり封筒に収められるので、封をして完了となる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>[写真1 封筒詰用具外観]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真2 差込口]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真3 書類詰め]</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>[写真4 取り外し]</p> </div> </div> <p>使用材料は、2mm厚の亚克力板と木材である。亚克力板は図1のようにカットし、両側の部分は図1の点線部分を加熱し、内側に折り曲げて作る。先端部は、やすりで円弧状に加工した後、縁をナイフの刃のように斜めに削り、封筒の開口部に入りやすくする。</p> <p>亚克力板の加熱には、専用のヒーターを使用すると加工しやすい。</p> <p>差込口を取り付ける枠は木材で作り、封筒を差込口にいっぱいに入れたときの封筒の底部より約5mm下のところに、木枠の底部がくるように作る。差込口の固定には、強力両面テープを使用した。</p> <div style="text-align: center;">  <p>[図1 差込口展開図]</p> <p>※ 数字はA利用、()内の数字はB利用である。 材質は2mm厚の亚克力板を使用。 単位：mm</p> </div>		
備考	実際に入所者に使用してもらい感想を聞くと、「これなら自分で封筒詰めができる」、「二重封筒も内側の部分がきちんと開くので、履歴書などの書類も入れやすい」とのこと好評であった。		

事例22	紙二つ折り用具（袋とじ用）	製作期日	平成12年 9月
製作目的	用紙を片手で二つに折る作業を可能とするために工夫した補助具である。 （製作契機：左手麻痺の入所者から、内定した企業で行う業務の中にB4判の紙を二つ折りにする作業があり、片手でも行える補助具はできないかとの相談を受け考案したものである。）		
外観・構造・材料	<p>基になっている文具は、マグネットシート付きA4用ソフトカードケースである。外観は写真1に示すとおりで、カードケースの2辺を切り落として製作してある。透明なシートの部分は、B5の幅を決める定規も兼ねており、折り目を付けるときに指で押さえ付けるので、下のシートの幅は少し広めにしている。</p> <p>使い方は、まず写真2のように二つ折りにしたいB4の用紙を透明シートの下に挿入する。紙を一番左まで押し込んでから、写真3のように紙を折り返して端を合わせる。</p> <p>端を合わせたら、指を少しずつずらして折り目の丸みを取っていく。二つ折りが大体できたら、写真4のように折り目の部分を指で強く押さえ、しごきながら折り目を付けていくと、きれいな二つ折りが完成する。</p> <p>ソフトケースを加工する各部の寸法は図1のとおりである。接着部分は、挿入する紙のストッパーとして利用している。また、透明シートを下のシートより狭い幅で切るときは、下のシートを傷付けないように、間に板目用紙のようなものを入れてからカッターで切ることが必要である。切り落とした透明シートの接着部分をはがすときには、ゆっくりと力を加えて引き上げるときれいにはがすことができる。</p>		
備考	片手でB4の大きさの紙を二つ折りにする作業は時間もかかりやっかいであるが、この補助具を使用すると今までよりはるかに楽に紙を二つ折りにすることができる。入所者からは好評をいただいた。		



[写真1 外観]



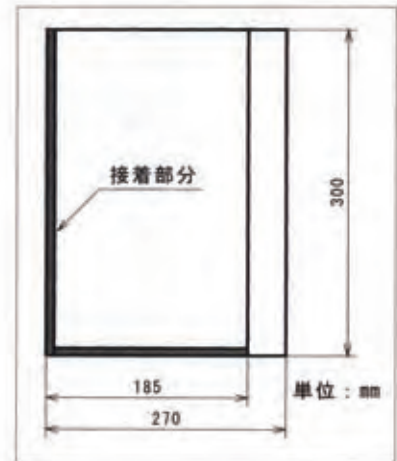
[写真2 紙を挿入]



[写真3 端を合わせる]



[写真4 折り目を付ける]



[図1 各部寸法]

職業訓練上特別な支援を要する障害者に対する実践研究会委員

<座 長> (敬称 略)

元職業能力開発総合大学校
福祉工学科 教授

佐藤 宏

<委 員>

国立職業リハビリテーションセンター

職業訓練部 訓練第一課長

住田 律夫

職業訓練部 訓練第三課主幹

槌西 敏之

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

職業訓練部 訓練第一課長

牛丸 富夫

職業訓練部 訓練第一課主幹

福島 正

障害者職業総合センター

職業リハビリテーション部 指導課長

望月 春樹

職業リハビリテーション部 指導課長補佐

古谷 護

<吉備分科会 委員>

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

職業訓練部 訓練第一課長

牛丸 富夫

職業訓練部 訓練第一課主幹

福島 正

職業訓練部 訓練第一課主任職業訓練指導員

竹尾 克之

職業訓練部 訓練第一課主任職業訓練指導員

岡田 哲夫

職業訓練部 訓練第二課主任職業訓練指導員

遠藤 嘉樹

職業評価指導部 職業指導課

主任障害者職業カウンセラー

近藤 光徳

(所属は平成 21 年 3 月現在)